

平成 27 (2015) 年度 東北大学法科大学院入学試験  
試験科目：刑事法 (刑法)

【設問】

以下の【事例】に挙げられた事実が真実であることを前提にして、X及びYの罪責について論じなさい (特別法違反の罪は除く)。

【事例】

1 甲マンション201号室に住んでいたX (25歳・男性・身長179cm・体重80kg) は、2012年8月25日午後10時頃、甲マンションから1kmほど離れた場所にあるコンビニエンスストアA (以下、A店とする。) までビールを買いに出かけたところ、甲マンションの北隣りに位置する乙マンションの駐輪場に、鍵がかけられていないV所有の自転車 (以下、V車とする。) を発見した。A店まで歩いて行くのは嫌だなと思っていたXは、1時間ほどで返せば、問題ないだろうと考え、Vに無断で、V車に乗って、A店に向かった。

2 同日午後10時15分頃、V車に乗ったXがA店の近くにある丙公園の横を通っていたところ、同公園で友人のY (24歳・男性・身長180cm・体重83kg) が、W (35歳・男性・身長170cm・体重76kg) と殴り合っているのを発見した。Xは、V車を丙公園脇の道にとめると、Yに加勢するつもりで、「何やってんだ。」と大声で言いながら、Yの方に駆け寄り、いきなりWの顔面を右手拳で殴打し、Yに対して、「大丈夫か。」と声をかけた。Yは、突然Xが現れ、Wを殴打したことに驚いたが、Xに対して、「おう、大丈夫だ。」と返事をしたうえで、Xに殴られてうずくまっているWの腹部を右足で強く蹴りあげた。WはXの上記殴打により鼻骨骨折の傷害を負ったが、Yの行為によって傷害を負うことはなかった。

3 骨折による痛みと恐怖のために反抗することができない状態に陥ったWが身体を震わせ、怯えているのを見たXは、少し脅せば金銭を奪うことができるだろうと考え、Wに対して、「金を出せば、これくらいにしておいてやるよ。」と言った。Wはこの場を逃れるには、Xの指示に従うしかないと考え、現金2万円が入った財布をXに差し出したところ、Xはそれを受け取った。Yは、XがWに金銭を要求したことに驚いたが、何も言わず、Xの傍らに立って、XとWのやり取りを見ていた。Wから財布を受け取ったXは、それをズボンの後ろポケットに入れると、Yに対し、「じゃあ、俺は帰るわ。またな。」と言って、その場を立ち去った。

4 その後、XはA店でビールを購入し、同日午後11時15分頃、V車を元の場所に戻してから、甲マンション201号室に戻った。なお、Vは、同日午後9時45分頃から翌朝まで眠っていたため、XがV車を無断で使用していることに気付かなかった。